

## IV. 環境衛生管理業務

### 1. 目的

「建築物における衛生環境の確保に関する法律」に基づく環境衛生管理基準に従って建築物の維持管理を行う。

### 2. 業務範囲

- (1) 特定建築物についての届出書類等の作成
- (2) 建築物環境衛生管理技術者の選任
- (3) 帳簿書類の報告・保管
- (4) 都道府県知事の要求による報告書の作成
- (5) 管理業務計画の立案、提出
- (6) 管理業務の指揮監督
- (7) 管理基準に関する測定検査の実施とその結果の評価
- (8) 環境衛生上の維持管理に必要な各種調査の実施

### 3. 業務内容

#### (1) 飲料水水質検査

本作業は「水道法」および「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づき、飲料水の水質検査を実施する。

業務対象：文化ホール受水槽系統 1 検体

検査種類	周期	検査項目
基本 16 項目検査	※年 2 回	一般細菌、大腸菌群、鉛、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素および亜硝酸態窒素、亜鉛、鉄、銅、塩素イオン、蒸発残留物、有機物等、PH 値、味、臭気、色度、濁度
簡易 11 項目検査	※——	一般細菌、大腸菌群、鉛、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素および亜硝酸態窒素、塩素イオン、有機物等、PH 値、味、臭気、色度、濁度
夏期 12 項目検査	6 月 1 日～9 月 30 日の間に 1 回	クロロホルム、ジブromクロロメタン、ブromジクロロメタン、ブromホルム、総トリハロメタン、シアン化物イオンおよび塩化シアン、クロロ酢酸、ジクロロ酢酸、臭素酸、トリクロロ酢酸、ホルムアルデヒド、塩素酸

※基本 15 項目の水質検査の結果、鉛・亜鉛・鉄・銅・蒸発残留物の 5 項目について水質基準に適合していれば、次回の水質検査は、この 5 項目を省略した「簡易 10 項目」についての水質検査となる。

#### (2) 空気環境測定

本作業は「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づき、空気環境測定を実施する。

業務対象：文化ホール ベルヒル文化棟全館

①測定項目	ア. 浮遊粉じんの量の測定 イ. CO の含有率の測定 ウ. CO <sub>2</sub> の含有率の測定 エ. 室内温度の測定 オ. 相対湿度の測定 カ. 気流の測定
②周期	1 回 / 2 カ月

③測定箇所 および測定回数	ア. 専用部分に対し、測定する。 測定点数は、入居事業所測定数（区画数）および外気測定数とする。 イ. 測定は同一ポイントにて執務中１日２回測定する。
④測定ポイント数	計６ポイント

(３) 遊離残留塩素含有率の測定

対象：文化ホール受水槽系統 １検体

①周期	１回／週
②測定箇所	給水末端水栓にて測定を行う。

(４) 排水設備清掃（公益・文化共用）

本作業は「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づき、排水設備の管理を実施する。

A. 排水槽清掃

①対象機器	(公益・文化共用) 雑排水槽（６４ｔ） １槽 汚水槽（１８ｔ） １槽
②作業周期	年２回
③作業内容	ア. 流入排水をポンプで吸い上げた後、バキュームポンプ車の吸上ホースにて攪拌しながら吸上げ、床面より５０ｃｍ位になれば槽内に入り、床面にある雑汚物等を排除し市水を給水しながらバキュームにて吸上げる。 イ. 槽内の壁面に付着する汚れ等を除去し、市水で壁面および床面をブラシ洗浄する。 ウ. 槽内の排水ポンプを点検清掃後、槽の亀裂またはパイプ等異常の有無点検する。 エ. 槽内清掃後、マンホール周辺の清掃および付属弁類、配管の漏れ点検する。 オ. 試運転調整を行なう。

B. 雑排水樹清掃および排水管清掃

①対象機器	(公益・文化共用) ア. 排水管 文化棟共用部分の１階横引き排水管 イ. 外周雑排水樹 文化棟共用部分の外周雑排水樹 計１７箇所
②作業周期	年２回
③作業内容	ア. 原則として、排水管端末(水道設備機器)から行い、上流から順次下流へ作業を進める。ただし、過去に詰まりがあった場所は、この箇所を優先する。 イ. 各排水管端末(水道設備機器)から枝管は、排水口からジェット洗浄ホースを挿入し管内を洗浄する。洗浄後、排水の流れ状態、機器配管継手部分漏水の有無を確認し、排水口廻りを清掃して終了する。 ウ. 外周会所樹清掃は会所樹蓋を開放し、外部用ジェット洗浄ホースを挿入横引き本管を洗浄し、下流の会所樹へと順次、外部本管洗浄を進め本管に至るまで行う。会所樹の壁面、床面に付着した汚れ等を除去洗浄する。洗浄後、残留物の確認、配管等の漏れ、陥没がないか確認点検し、最後に会所樹周辺の清掃を行い終了する。

－ 以 上 －